



(左)高槻市塚原地区から望む阿武山観測所。山の緑に塔が鮮やかに浮かぶ。  
(中上)阿武山観測所の歴史や現況を語る飯尾能久所長＝高槻市奈佐原の同観測所。  
(中下)90年にわたって地震のメカニズムに迫ってきた阿武山観測所。  
(右)地下展示室にある地震計のひとつ「佐々式大震計(たいしんけい)」。1934年に2代目所長が開発し、97年まで使用された。

## SOCIAL 地震追って90年 —高槻・京大阿武山観測所— 上

山の緑に薄いクリーム色の塔が映える。高槻、茨木市境に位置する阿武山山頂(281m)南の尾根に立つ、京都大学防災研究所附属地震予知研究センターの阿武山観測所(高槻市奈佐原)だ。1930年の設立以来、90年もの間、日本の地震研究の重要な一翼を担ってきた。その歴史や研究成果などについて、3回にわたって紹介する。

麓からよく目立つ建物は、2階建ての西館と3階建ての本館からなり、面積は延べ約2,000㎡ある。塔の高さは30m。実はこの塔、所長の飯尾能久(よしひさ)・防災研教授＝地震学＝によると、

国家の事業の偉容を示すため、現在のJR京都線から見えるようにと設計された。「研究には不要。むしろ邪魔」と飯尾所長は苦笑する。

それでも観測所は時々の最新の地震計を導入、1943年の鳥取地震や48年の福井地震などの観測で地震現象の解明に大きく貢献した。防災研が岐阜県以西に展開する8観測所の中で最古の施設だが、現在も防災研の小型の地震観測システムの中核として、南海トラフ巨大地震や内陸地震の予知のためのデータを蓄積している。さらに敷地内で34年、藤原鎌足の墓とされる国の史跡・阿武山古墳が発見されたことでも知られる。

一方で、この大きな特徴は外に開かれた施設であることだ。2014年の耐震改修までほぼ当初のままだった建物に加え、歴史上重要な地震計がいくつも残り、市民に地震を学んで防災を考えてもらう科学博物館としての役割も果たしている。地下に展示室があり、かつて使われた機器が並ぶ。2月を最後にコロナ禍で中止しているが、年に60回ほどの見学会を催し、約2,000人が市民ボランティアによる解説に聴き入ってきたという。

また、昭和初期の雰囲気がそのまま残っていた建物は、テレビドラマや映画のロケでも使われた。11年公開の映画「プリンセストヨトミ」の撮影もあり、玄関

ホールにはいまも出演の綾瀬はるかさんが座ったというパイプ椅子、「アヤセハルカイス」なるものが置かれている。

1980年ごろには15、6人が働いていた施設も、設備や人員が京都府宇治市の防災研本体に移り、現在常勤は2人だけだ。広い館内、やや寂しい感じは否めないが、飯尾所長は「何とか11月には見学会を再開し、また多くの人に訪れてもらいたい」と話す。

〈次号では観測所の近年の研究活動を紹介します〉



アルコール度数9.5%の「BACK to the 鬼嫁」。自家製の燻製チーズや燻製卵、大葉とチーズの生ハム巻きなども。

「少しずつ味わってもらえるようなビールを造りたい」と話す浅平さんと尚子さん。

## CULTURE 茨木初のブルューパブ「3treebrewery」が誕生

阪急京都線茨木市駅から徒歩5分ほどの所に、茨木初のビール醸造所併設の飲食店、ブルューパブが誕生する。営むのはビール職人の森浅平さんと尚子さん夫婦。店名の3tree(3本の木)は夫婦の苗字を表している。

学生時代を京都で過ごした浅平さん。「楽しくておいしく飲めるビールという存在が好き」になり、関西のさまざまなビールイベントに参加していた。中でも好きだったのが、全国のクラフトビールが集まる「茨木麦音フェスト」。「ビールが主役というよりビールを手に地域の人が楽しい時間を過ごしている雰囲気が好きだった」という。参加するうちに「ここに自分が造った茨木の地ビールがあったら」と思うようになった。

大学を卒業後、特に好きだった北海道の地ビール「鬼伝説」の醸造所「わかさいも本舗」に就職。約4年間、ビール造りを

学んだ。

店の1階には、高さ1.5mほどの醸造設備と100ℓのビールタンク4つがずらりと並ぶ。「造り手の思いや醸造過程など、ビールが出来上がるまでのストーリーを含めて楽しんでほしい」との思いから、醸造スペースはガラス張りにした。ここでペールエールやセゾンなど、柑橘系の香りが特徴的なエールビールをメインに4種類を醸造。2階の飲食スペースで、ナッツやチーズの燻製などと一緒に楽しめる。

現在は、ブルューパブとして営業するため酒類製造免許を申請中。免許取得までは、ビアパブとして「鬼伝説」3種類に加え、わかさいも本舗とコラボしたセゾンビール「BACK to the 鬼嫁」を提供する。

3treebrewery (スリーツリーブルワリー)

茨木市双葉町3-19  
営/平日:15時~22時・土日祝:12時~22時・不定休  
アクセス/阪急京都線茨木市駅から徒歩5分  
Instagramアカウント 3treebrewery

コラム  
COLUMU

### 梅花から「令和」を込めて

### 実はいくつ?



秋の味覚はいろいろありますが、栗を話題にしてみましょう。お店では、茶色い粒で売られていることが多いと思うのですが、木に成っている実は、鋭いイガで覆われた殻の中に入っています。ひとつの殻の中に、実はいくつ入っていますか?

『万葉集』が収める柿本人麻呂家集の中には、

まつへ  
松反<sup>り</sup>ひてあれやは三栗の中上<sup>り</sup>来ぬ  
麻呂といふ奴  
松反 四臂而有八羽  
三栗 中上不来 麻呂等言八子

(巻9・1783番歌)

と詠まれた歌が残されています。三句目に「三栗」とあるので、ひとつのイガの中に三つの実が入っています。真ん中が大きく育つので、「中」へとかかる枕詞として使用されました。

この歌には、夫が先に、

雪こそは春日消ゆらめ心さへ消えさせた  
れや言も通はぬ  
雪己曾波 春日消良米  
心佐閑 消失多列夜言母不往来

(巻9・1782番歌)

と詠んでいます。「雪なら、春の日差しにとけて消えてしまふだろうが、(あなたは)心

まで消えて失ってしまったのですか、言葉もかけてくれなくなって」と、妻への不満を歌にしてぶつけました。これに妻が、「(鷹は)松に返るといのに、(この人は)ぼけてしまったのかしら。イガの中に三つある栗の実は、真ん中が立派であるのに、(途)中で私の所へ上って来もしないで(文句ばかり言っているわ)、しょうもない麻呂という奴ね」としっぺ返しています。「上り」とあるのは、夫が地方赴任をしているようで、報告などの折りに都へ上り来ることを指しています。この時、自身のもとへ立ち寄らない夫に「麻呂の奴め!」と怒っています。

「夫婦喧嘩は犬も食わない」といいますが、作者のお二人には、「どうぞそのまま、栗でも食べてお幸せに」と、いって終わることのようです。万葉歌に用いられる比喻表現は、生活感にあふれています。

TEXT

梅花女子大学教授 市瀬 雅之

現代訳から原文までを用いて『万葉集』に文学を楽しむほか、『古事記』や『日本書紀』等に日本神話や説話、古代史をわかりやすく読み解く。中京大学大学院修了 博士(文学)。著書に『大伴家持論 文学と氏族伝説』おうふう 1997年、『万葉集編纂論』おうふう 2007年、『北大阪に眠る古代天皇と貴族たち 記紀万葉の歴史と文学』梅花学園生涯学習センター公開講座ブックレット 2010年。ほか執筆・講演・講座多数